

北庄内合併協議会資料(第1小委員会資料)

協定項目24-(11) 観光関係事業の取扱いについて(その1)

調整方針(案)

(1)各観光協会(観光物産協会)については、新市における一体的な観光振興が図られるよう、各団体の意向を十分尊重のうえ、組織の統合を働きかける。

所管部会・分科会

商工観光部会 観光分科会

各観光協会(観光物産協会)の現状

市町名	酒田市	八幡町	松山町	平田町	調整方針
観光協会名	酒田観光物産協会	八幡町観光物産協会	松山町観光協会	平田町観光協会	<p>各観光協会(観光物産協会)の意向を十分尊重のうえ、新市における一体的な観光振興が図られるよう、組織の統合を働きかけていくこととする。</p> <p>組織の統合が図られる際には、支部制を採用するなど、十分に配慮する。</p> <p>会費額等、取扱いに差異がある事項については、当面現行のとおりとし、段階を踏んで調整を図ることとする。</p> <p>なお、最終的な組織統合に関しては、当該各観光協会(観光物産協会)が判断すべきものであり、各団体の判断を尊重するものである。</p>
会長	齋藤成徳(民間)	後藤孝司(町長)	池田一喜(民間)	加藤寛英(町長)	
会員数	430	190	104	102	
事務局体制	<p>【事務局の位置】</p> 酒田市山居町1-1-20 <p>【職員配置】</p> 正職員等 2名 契約職員 4名 臨時・パート 14名	<p>【事務局の位置】</p> 八幡町役場内 <p>【職員配置】</p> 町職員が事務局を兼務 事務局長 企画商工課長 商工観光係 4名	<p>【事務局の位置】</p> 松山町役場内 <p>【職員配置】</p> 町職員が事務局を兼務 事務局長 産業建設課長 商工観光係 2名	<p>【事務局の位置】</p> 平田町役場内 <p>【職員配置】</p> 町職員が事務局を兼務 事務局長 企画課長 商工観光係 2名	
平成16年度予算額 (一部特別会計等含む)	168,084,000円	6,680,000円	3,517,000円	5,341,000円	
うち市町負担金 (補助金)の額	57,594,000円	3,500,000円	1,200,000円	1,260,000円	
主な事業	酒田日和山桜まつり 酒田まつり あじさいまつり 酒田港まつり 酒田港甚句流し 酒田港まつり 酒田花火ショー 酒田日本海寒鰯まつり 地酒フェア 旅行エージェント訪問等の誘客 宣伝活動 その他イベント等への協力・協賛 酒田市観光物産館の管理 観光物産品の開発普及及び販売促進	舞鶴公園桜のライトアップ 鳥海山湯ノ台口山開き ふるさと夏祭り 全国前の川釣り大会 鳥海高原まつり 産業まつり 観光情報誌の発行 その他イベント等への協力・協賛 観光物産品の販路拡大・販売促進	ふるさと夏まつり 眺海の森写真コンテスト 観光ボランティアガイドの利用促進 眺海の森音楽祭 その他イベント等への協力・協賛	花火大会 新緑の十二滝・経ヶ蔵ツアー 植木まつり 産業まつり 眺海の森写真コンテスト 冬の十二滝と温泉ツアー その他イベント等への協力・協賛	

北庄内合併協議会資料(第1小委員会資料)

協定項目24-(11) 観光関係事業の取扱いについて(その1)

調整方針(案)

(2) 各種観光イベントについては、当面現行のとおり新市に引き継ぐことを基本とし、合併後、各種観光イベントの再編成を検討する。

所管部会・分科会

商工観光部会 観光分科会

各種観光イベント一覧(現状) 観光所管以外の主な伝統行事、商店街イベント等を含む

市町名	酒田市	八幡町	松山町	平田町	調整方針
春	酒田日和山桜まつり 酒田まつり 酒田あじさいまつり	舞鶴公園桜まつり 玉簾の滝ライトアップ 全国前ノ川釣り大会	眺海の森ウォークラリー 松山まつり「武者行列」 松山まつり「砲術演武」 松山城新能	新緑の経ヶ蔵・十二滝ツアー 体験農業 体験田植え 平田町植木まつり	<p>各種観光イベントについては、当面現行のとおり新市に引き継ぐことを基本とする。</p> <p>合併後、全国的に発信していくイベントと、地域住民の皆さんから楽しんでいただくイベントに大別し、各種観光イベントの再編成を検討する。</p> <p>統合できるものは統合し、地域に根ざしたイベントはさらに充実させる方法を検討していく。</p>
夏	海水浴場開き 酒田港夕陽クルーズ 夕涼み市 酒田港まつり 酒田湊甚句流し 酒田港まつり 酒田花火ショー 環日本海和太鼓フェスティバル 酒田灯籠まつり	鳥海山湯ノ台口山開き ふるさと夏祭り 玉簾の滝ライトアップ	眺海の森音楽祭 ふるさと夏まつり 松山能	庄内ひらた目ん玉まつり 平田町花火大会 新山延年 農村体験 〔調布中学校修学旅行〕 〔受入事業〕	
秋	酒田どんしゃんまつり	鳥海高原まつり 八幡町産業まつり	最上川大芋煮大会	体験農業 体験稲刈り 庄内ひらた目ん玉秋まつり (産業まつり)	
冬	酒田日本海寒鱈まつり 酒田地酒フェア 黒森歌舞伎 酒田雑街道	氷瀑の玉簾の滝探検	松山町スキー場開き 歳の市 總光寺大寒能 眺海の森感謝祭	平田町スキー場開き 飛鳥神社 裸参り 冬の十二滝と温泉ツアー 旧阿部家 ひな祭り	

北庄内合併協議会資料(第1小委員会資料)

協定項目24-(11) 観光関係事業の取扱いについて(その1)

調整方針(案) (3)旅客定期航路事業については、現行のとおり新市に引き継ぐ。

所管部会・分科会 商工観光部会 観光分科会

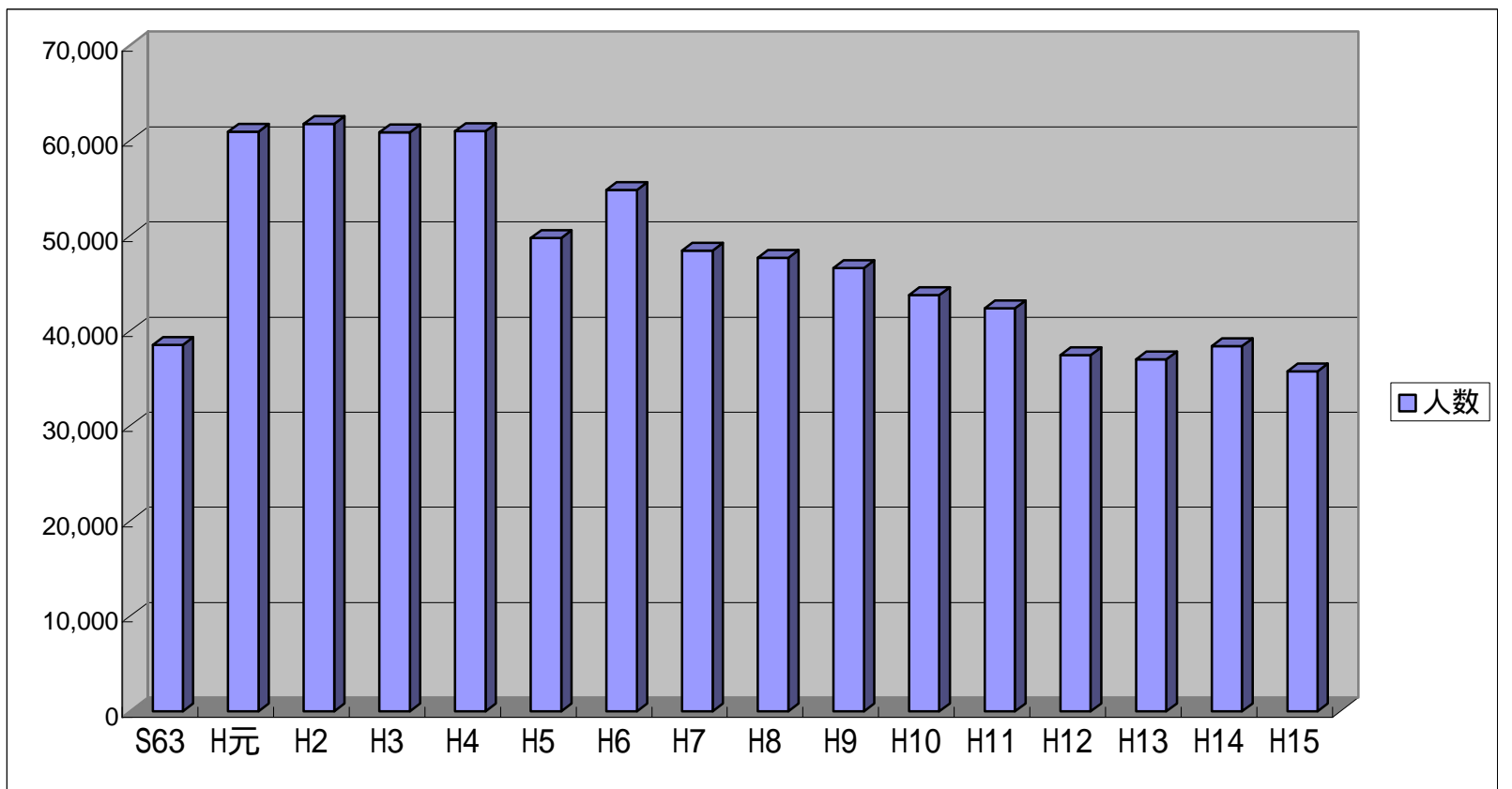
定期航路事業の沿革

明治42年 7月	汽船玄洋丸就航
大正 3年11月	定期船「飛島丸」20トン建造就航(飛島漁業協同組合経営)
昭和 6年11月	定期船「飛島丸」を、27トンに再建造就航 (飛島漁業協同組合経営)
昭和25年 4月	飛島村が酒田市に合併
昭和27年 8月	定期航路事業を酒田市に移管 市営定期船「おばこ丸」60トン建造就航(中古船)
昭和28年 4月	酒田市旅客定期航路運賃条例制定 (大人140円 高校生110円 小人70円)
昭和32年 4月	運賃条例改定(大人170円 高校生140円 小人85円) 特別室(大人 50円 高校生 40円 小人25円) 定期船「とびしま」80トン建造就航
昭和38年10月	定期船飛島事務所設置
昭和40年 4月	酒田市旅客定期航路事業所設置
昭和45年 4月	法木寄港を廃止
昭和47年 6月	定期船「とびしま丸」150トン建造就航
昭和48年 4月	酒田市旅客定期航路事業所新築、移転
昭和52年 7月	飛島連絡所待合室新設
平成 元年 6月	定期船「ニューとびしま」223トン建造就航
平成 3年 6月	サンセットクルーズ開始
平成 3年 7月	飛島マリンプラザ完成、1階に飛島連絡所を設置
平成 5年 9月	定期船「とびしま丸」引退、船名を「龍田」と変え、 中国黒龍江省へ贈呈
平成 9年 4月	運賃条例改定 (大人2,040円 小人1,020円) 島民割引(往復)(大人3,680円 小人1,840円) 特別室 (6才以上910円 6才未満460円) 現行料金 (昭和32年の1回目の料金改定より8回の改定を経て現行に到る)
平成14年12月	酒田市旅客定期航路事業所新築、移転(本港地区再開発事業)

年度別乗客数推移(4月~3月)

単位:人

年度	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
人数	38,487	60,950	61,769	60,864	60,970	49,770	54,808	48,441	47,648	46,570	43,732	42,340	37,456	36,959	38,356	35,717



調整方針 生活航路としての役割を持つ旅客定期航路事業は、現行のとおり新市に引き継ぐ。
なお、誘客事業を引き続き展開して乗客数の向上に努め、飛島の観光振興を担う機能としての充実を図る。